福島県大熊町

WASEDA University

福島県大熊町 ＆ 早稲田大学
地域連携スタディツアー2026

地域連携スタディツアーとは

参加学生が地域の文化、産業、自然環境などを直接体験し、地域の課題や魅力を深く理解することを目的とした、早稲田大学と地方自治体が共同で企画する実践的な学びのプログラムです。

プログラムのなかで、自治体や地域住民、企業等との交流を通じて、設定されたテーマについて考察します。地域社会の現実的な課題に直面し、解決策を模索する経験を積むことで、今後の地域連携や地域貢献活動に役立つ「学び方を学ぶ」ことができます。このプログラムを通じて、自らの経験値を上げ、地域を見る目、地域の課題解決に対応する力をぜひ養ってください。

おススメのポイント！

- ●東日本大震災・原発事故からの復興の現場を、自分の目で見て学ぶことができます。
- ●移住者、行政、教育関係者、事業者など、多様な立場の方々と交流できます。
- ●復興まちづくりや地域コミュニティの再構築という、日本社会全体にも関わる課題について考えることができます。
- ●副専攻「地域連携・地域貢献」の実践領域の対象プログラムです。

テーマ

多様な人々がつくる復興のまち
～大熊町のコミュニティとこれからの地域のあり方を考える～

大熊町は、2011 年の東日本大震災と原発事故により全町避難を経験した町です。その後、段階的な避難指示解除や住環境の整備を経て、現在は帰還した住民に加え、新たな移住者や事業者など、多様な人々が関わりながら新しいまちづくりが進められています。一方で長期間の避難による人口構成の変化やコミュニティの再構築、地域の魅力や現状をどのように発信していくかといった課題もあります。本スタディツアーでは、震災と原発事故が地域へ与えた影響を学びます。また行政職員、地域事業者等へのヒアリングを通じて、大熊町が直面する課題と可能性について多角的に考察します。そのうえで「多様な人々が関わる地域コミュニティのあり方」と「大熊町の今を地域外へ伝える方法」をテーマに、大熊町役場や関係者へ提案を行ってください。

大熊町の魅力

福島県浜通りに位置する大熊町は、太平洋に面した豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれた町です。東日本大震災と原発事故により全町避難を経験しましたが、現在は住まいや、交流拠点、教育施設などの整備が進み、新たなまちづくりが進められています。2019 年以降、段階的に避難指示が解除され、帰還した町民に加え、新たな移住者や起業家も増えています。産業創出拠点である大熊インキュベーションセンターや産業交流施設「CREVA おおくま」など、新しい挑戦を後押しする環境も生まれています。



大熊町の特徴は「復興と新しいまちづくりを進める町」であることです。さまざまな立場の人々が協働しながら未来の地域社会を形づくる現場に触れることで、地域づくりの最前線を体感することができます。

募集概要

実施日程	2027 年 2 月 23 日（火）から 2 月 26 日（金）　3 泊 4 日
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず） （留学生の場合は、日本語でのヒアリング、グループワーク、プレゼンテーションに対応できることを条件とする）
募集期間	2026 年 11 月 2 日（月）～11 月 15 日（日）23：59 [厳守]
応募条件	①2 回のオンデマンド授業を視聴し、それぞれ課題を提出すること、②現地 3 泊 4 日の全日程に参加すること（途中参加・早退不可）。③終了後に期限内にレポート提出すること、以上、3 点を確約できる者。
募集人数	32 名　※応募者多数の場合は、志望理由で選考します。
実施の流れ	①　12 月に 2 回のオンデマンド授業を受講し、それぞれ課題を提出 ②　現地実習参加（最終日の成果報告会でプレゼンテーション） ③　終了後にレポート提出
応募方法	① MyWASEDA の「お知らせ一覧」から「地域連携スタディツアー2026 春編」を検索 ②「地域連携スタディツアー2026 春編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由など）を入力して申請
選考方法	書類選考：結果通知は**2026年11月27日（金）までに申込時に記入したメール**にて通知します。 ※この日程前であっても、ご連絡することがありますので、よくメールを確認するようにしてください。また、当選者には、メールにて参加の意思確認をします。返信がない場合は無効になりますのでご注意ください。
連絡事項	① 本スタディツアーは課外活動なので、卒業単位の対象ではありませんが、副専攻「地域連携・地域貢献」の実践領域に「1 単位相当」として認定されます。 ② 2027 年 2 月 23 日から 26 日の現地実習は、早稲田大学周辺と現地を貸し切りバスで往復します。 ③ 宿泊は、大熊町内または近隣のホテルを予定 ④ **往復交通費と宿泊費（上記②と③）は、福島県および大熊町からの補助金により、無料となります。** ⑤ 参加者が現地で負担する費用は、食事 10 回、博物館等の入館料、班別学習のためのレンタルスペース代で、計 16,000 円程度です。初日に現地で徴収します。 ⑥ 現地移動は②の貸し切りバスのほか、大熊町からご支援をいただきます。 ⑦ 現地では、本学教員と自治体職員・コーディネーターが引率します。 ⑧ 参加学生は、4 つの視点に分かれ、大熊町の現状や課題について調査・考察を行います。最終日の成果報告会では、各視点から得られた学びや気づきを踏まえ、「多様な人々が関わる地域コミュニティのあり方」と「大熊町の今を地域外へ伝える方法」について提案を行います。どの視点に取り組むかは自動登録とし、事前学習時に発表します。 1．町で暮らす・働くという選択　2．人と人がつながるまちづくりと交流 3．次世代を育む教育地域　4．資源と新たな挑戦 ⑨ 早稲田大学の学生補償制度（損害補償・賠償責任補償）に加入します。費用は大学が負担します。 ⑩ 現地実習実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、公欠扱いになりません。 ⑪ 参加確定後に、正当な理由なく参加を取りやめた場合、以後の地域連携スタディツアー、地域連携ワークショップ等に応募できないことがあります。 ⑫ 【重要】本スタディツアーに参加が決定した場合、11 月に募集予定の地域連携ワークショップおよび企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各プログラムの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑬ 本スタディツアーでは連携先、大学がインスタグラム等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。掲載の際には個人特定されないよう十分注意いたしますが、あらかじめご了承ください。 ⑭ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。
問合せ先	グローバル・エデュケーション・センター　准教授　加藤基樹（motokato@waseda.jp） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

現地実習のスケジュール（予定）

2月23日(金)	朝	早稲田大学周辺に集合、貸し切りバスで大熊町へ移動 (バス車内でオリエンテーション)
	午後	東日本大震災・原子力災害伝承館、震災遺構 浪江町立請戸小学校見学
	16:30	宿泊施設にチェックイン、ふりかえり、夕食、班別学習
2月24日(水)	8:45	集合、連絡事項
	9:00	大熊町役場にてレクチャー
	12:00	昼食
	13:00	中間貯蔵施設情報センター・中間貯蔵施設を見学
	17:00	ふりかえり、夕食、班別学習
2月25日(木)	8:45	集合、連絡事項
	午前	テーマ別フィールドワーク (例)未来ワークふくしま、おおくままちづくり公社、学び舎ゆめの森など
	午後	班別学習(プレゼンテーション作成)
2月26日(金)	9:00	成果報告会@大熊町役場
	終了後	早稲田大学に向けて貸し切りバスで移動

※天候や諸般の事情により、スケジュールに変更が生じる場合があります

その他

副専攻「地域連携・地域貢献」の実践領域では、２単位相当を要件としています。
本スタディツアーは１単位相当なので、これだけでは不足しますが、今後、地域連携スタディツアーは、夏休みと春休みに、それぞれ数カ所で実施する予定です。今後、複数のスタディツアーに参加して、それぞれの違いを感じながら、実践的に学んでいくことをおすすめします。